

# $\sum ij, \sum i^3 j^2$ 等について

しのみや かずしげ  
四宮 一成

## §1. はじめに

数研通信 No.61 に「数研通信 No.59 を読んで」が数編掲載されている。これらから思いついたことであるが、標題の公式を導く。これを導いておけば、村井先生が導いた  $N_n^{n+1}, N_n^{n+2}, \dots$  についての公式 (No.61 の p.26, 27) を、私の導いた公式 (同 p.23) で導くことができる。そのことを示そう。(ただ、以下の方法は計算が非常に複雑である。私は数式計算処理ソフト Mathematica の助けを借りた)

## §2. $\sum ij, \sum i^3 j^2$ 等の定義

(定義) 1, 2, 3, ...,  $n$  から、相異なる  $r$  個の自然数  $i_1, i_2, \dots, i_r$  を選び、その選び方すべてにわたる関数  $f(i_1, i_2, \dots, i_r)$  の値の和を

$$\sum f(i_1, i_2, \dots, i_r)$$

と表す。

ただし、対称性のある場合、計上するのは 1 つだけとする。例えば、

$$\sum ij \text{ は、 } 1 \cdot 2 + 1 \cdot 3 + \dots + (n-1)n$$

であって、

$$1 \cdot 2 + 2 \cdot 1 + 1 \cdot 3 + 3 \cdot 1 + \dots + (n-1)n + n(n-1)$$

ではない。一方、 $\sum i^2 j$  は、

$$1^2 \cdot 2 + 2^2 \cdot 1 + 1^2 \cdot 3 + 3^2 \cdot 1 + \dots + (n-1)^2 n + n^2 (n-1)$$

である。もちろん  $i=j$  の形 ( $2^2 \cdot 2$  等) は含まない。

## §3. 各種の公式

$$(1-1) \sum i = \frac{1}{2} n(n+1)$$

$$(2-1) \sum i^2 = \frac{1}{6} n(n+1)(2n+1)$$

(2-2)  $(\sum i)^2$  を展開すると

$i^2$  の形のものが 1 回現れ、

$ij$  の形のものが  $2! = 2$  回現れるから

$$(\sum i)^2 = \sum i^2 + 2 \sum ij$$

$$\begin{aligned} \therefore \sum ij &= \frac{1}{2} \{ (\sum i)^2 - \sum i^2 \} \\ &= \frac{1}{2} \left[ \left\{ \frac{1}{2} n(n+1) \right\}^2 - \frac{1}{6} n(n+1)(2n+1) \right] \\ &= \frac{1}{24} (n-1)n(n+1)(3n+2) \end{aligned}$$

これは、数学B数列で、有名な求め方である。

$$(3-1) \sum i^3 = \left\{ \frac{1}{2} n(n+1) \right\}^2$$

(3-2)  $\sum i^2 \cdot \sum j = \sum i^3 + \sum i^2 j$  であるから

$$\sum i^2 j = \sum i^2 \cdot \sum j - \sum i^3 = \frac{1}{6} (n-1)n^2(n+1)^2$$

(3-3)  $(\sum i)^3$  を展開すると

$i^3$  の形のものが 1 回現れ、

$i^2 j$  の形のものが  $3!/2! = 3$  回現れ、

$ijk$  の形のものが  $3! = 6$  回現れるから、

$$(\sum i)^3 = \sum i^3 + 3 \sum i^2 j + 6 \sum ijk$$

$$\therefore \sum ijk = \frac{1}{6} \{ (\sum i)^3 - \sum i^3 - 3 \sum i^2 j \}$$

$$= \frac{1}{48} (n-2)(n-1)n^2(n+1)^2$$

以下同様の計算を行うので結果のみ示す。

$$(4-1) \sum i^4 = \frac{1}{30} n(n+1)(2n+1)(3n^2+3n-1)$$

$$(4-2) \sum i^3 j = (\sum i^3)(\sum j) - \sum i^4 \\ = \frac{1}{120} (n-1)n(n+1)(15n^3+21n^2-4)$$

$$(4-3) \sum i^2 j^2 = \frac{1}{2} \{ (\sum i^2)^2 - \sum i^4 \} \\ = \frac{1}{360} (n-1)n(n+1)(2n-1)(2n+1)(5n+6)$$

$$(4-4) \sum i^2 jk = \frac{1}{2} \{ (\sum i^2)(\sum j)^2 - \sum i^4 \\ - 2 \sum i^3 j - 2 \sum i^2 j^2 \} \\ = \frac{1}{720} (n-2)(n-1)n(n+1)(30n^3+35n^2-11n-12)$$

$$(4-5) \sum ijkl = \frac{1}{24} \{ (\sum i)^4 - \sum i^4 - 4 \sum i^3 j - 6 \sum i^2 j^2 \\ - 12 \sum i^2 jk \}$$

$$= \frac{1}{5760} (n-3)(n-2)(n-1)n(n+1) \times (15n^3 + 15n^2 - 10n - 8)$$

$$(5-1) \quad \sum i^5 = \frac{1}{12} n^2 (n+1)^2 (2n^2 + 2n - 1)$$

$$(5-2) \quad \sum i^4 j = (\sum i^4)(\sum j) - \sum i^5 \\ = \frac{1}{60} (n-1)n^2(n+1)^2(2n-1)(3n+4)$$

$$(5-3) \quad \sum i^3 j^2 = (\sum i^3)(\sum j^2) - \sum i^5 \\ = \frac{1}{24} (n-1)n^2(n+1)^2(2n^2+n-2)$$

$$(5-4) \quad \sum i^3 j k = \frac{1}{2} \{ (\sum i^3)(\sum i^2) - \sum i^5 \\ - 2\sum i^4 j - \sum i^3 j^2 \} \\ = \frac{1}{480} (n-2)(n-1)n^2(n+1)^2(15n^2+7n-16)$$

$$(5-5) \quad \sum i^2 j^2 k = \frac{1}{2} \{ (\sum i^2)^2 (\sum k) - \sum i^5 \\ - \sum i^4 j - 2\sum i^3 j^2 \} \\ = \frac{1}{720} (n-2)(n-1)n^2(n+1)^2(20n^2+4n-27)$$

$$(5-6) \quad \sum i^2 j k l = \frac{1}{6} \{ (\sum i^2)(\sum j)^3 - \sum i^5 - 3\sum i^4 j \\ - 4\sum i^3 j^2 - 6\sum i^3 j k - 6\sum i^2 j^2 k \} \\ = \frac{1}{720} (n-3)(n-2)(n-1)n^2(n+1)^2(5n^2-8)$$

$$(5-7) \quad \sum i j k l m = \frac{1}{120} \{ (\sum i)^5 - \sum i^5 - 5\sum i^4 j \\ - 10\sum i^3 j^2 - 20\sum i^3 j k - 30\sum i^2 j^2 k - 60\sum i^2 j k l \} \\ = \frac{1}{11520} (n-4)(n-3)(n-2)(n-1)n^2(n+1)^2(3n^2-n-6)$$

#### § 4. 組み分け方の総数の求め方への応用

数研通信 61 号で、村井靖雄先生は

【異なる  $m$  個のモノを名前の付いた  $n$  個の組に空箱を作らないで分けるときの分け方の総数を  $N_n^m$  とすると、 $N_n^m = \sum_{k=0}^{n-1} (-1)^k {}_n C_k (n-k)^m$  である。】

を導いており、同じく数研通信 61 号で、私は、

【 $\sum 1^{a_1} 2^{a_2} 3^{a_3} \dots n^{a_n} = \sum_{k=0}^{n-1} (-1)^k {}_n C_k (n-k)^m$  ただし、

左辺の  $\sum$  は、 $a_1 + a_2 + \dots + a_n = m$  を満たす自然数  $a_i$  の組すべてにわたっての和である。( $m \geq n$ )】を導いている。

この 2 つを繋ぐと次の定理を得る。

$$N_n^m = \sum 1^{a_1} 2^{a_2} 3^{a_3} \dots n^{a_n} \dots \textcircled{1}$$

ただし、左辺の  $N_n^m$  は上記の組み分け数で、右辺の  $\sum$  は

$$a_1 + a_2 + \dots + a_n = m \dots \textcircled{2}$$

を満たす自然数  $a_i$  の組すべてにわたっての和である。( $m \geq n$ )

この定理によって、村井先生が導いている  $N_n^{n+1}$ ,  $N_n^{n+2}$ , ... を求めよう。

ただ、先生も述べているように、 $N_n^{n+1}$ ,  $N_n^{n+2}$ , ... は  $n!$  の倍数であるから、 $S_n^m = \frac{N_n^m}{n!}$  とおいて、 $S_n^m$  を求めることで代えることにする。ちなみにこの  $S_n^m$  は第 2 種スターリング数である。つまり、各室が区別の付かない場合の組み分け方の総数である。

##### 1 $N_n^{n+1}$ について

$m = n+1$  の場合であるから、 $\textcircled{2}$  が、 $a_1 + a_2 + \dots + a_n = n+1$  となる。これを満たす  $a_i$  の組は

$$(a_1, a_2, \dots, a_n) = (2, 1, 1, \dots, 1), \\ (1, 2, 1, \dots, 1), \dots, (1, 1, 1, \dots, 2)$$

に限られる。従って、 $\textcircled{1}$  の右辺が次のように変形される。

$$N_n^{n+1} = 1^2 \cdot 2 \cdot 3 \cdot \dots \cdot n + 1 \cdot 2^2 \cdot 3 \cdot \dots \cdot n \\ + \dots + 1 \cdot 2 \cdot 3 \cdot \dots \cdot n^2 \\ = (1+2+\dots+n) \cdot 1 \cdot 2 \cdot \dots \cdot n = \sum i \cdot n!$$

$$\therefore S_n^{n+1} = \sum i = \frac{1}{2} n(n+1)$$

##### 2 $N_n^{n+2}$ について

1 と同様に、 $\textcircled{2}$  が、 $a_1 + a_2 + \dots + a_n = n+2$  となり、これを満たす  $a_i$  の組は

$$(a_1, a_2, \dots, a_n) = (3, 1, 1, \dots, 1), \\ (1, 3, 1, \dots, 1), \dots, (1, 1, 1, \dots, 3), \\ (2, 2, 1, \dots, 1), (2, 1, 2, 1, \dots, 1), \\ \dots, (1, \dots, 1, 2, 2)$$

に限られる。従って、 $\textcircled{1}$  の右辺が次のように変形される。

$$N_n^{n+2} = 1^3 \cdot 2 \cdot 3 \cdot \dots \cdot n + 1 \cdot 2^3 \cdot 3 \cdot \dots \cdot n + \dots + 1 \cdot 2 \cdot 3 \cdot \dots \cdot n^3 \\ + 1^2 \cdot 2^2 \cdot 3 \cdot \dots \cdot n + 1^2 \cdot 2 \cdot 3^2 \cdot 4 \cdot \dots \cdot n \\ + \dots + 1 \cdot 2 \cdot 3 \cdot \dots \cdot (n-1)^2 \cdot n^2 \\ = (1^2 + 2^2 + \dots + n^2) \cdot n! + (1 \cdot 2 + 1 \cdot 3 + \dots \\ + (n-1)n) \cdot n!$$

$$\begin{aligned} \therefore S_n^{n+2} &= \sum i^2 + \sum ij \\ &= \frac{1}{6}n(n+1)(2n+1) + \frac{1}{24}(n-1)n(n+1)(3n+1) \\ &= \frac{1}{24}n(n+1)(n+2)(3n+1) \end{aligned}$$

### 3 $N_n^{n+3}$ , $N_n^{n+4}$ , $N_n^{n+5}$ について

$$\begin{aligned} \text{同様に, } S_n^{n+3} &= \sum i^3 + \sum i^2j + \sum ijk \\ &= \frac{1}{48}n^2(n+1)^2(n+2)(n+3) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} S_n^{n+4} &= \sum i^4 + \sum i^3j + \sum i^2j^2 + \sum i^2jk + \sum ijkl \\ &= \frac{1}{5760}n(n+1)(n+2)(n+3)(n+4) \\ &\quad \times (15n^3 + 30n^2 + 5n - 2) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} S_n^{n+5} &= \sum i^5 + \sum i^4j + \sum i^3j^2 + \sum i^3jk + \sum i^2j^2k \\ &\quad + \sum i^2jkl + \sum ijklm \\ &= \frac{1}{11520}n^2(n+1)^2(n+2)(n+3)(n+4)(n+5) \\ &\quad \times (3n^2 + 7n - 2) \end{aligned}$$

## §5. おわりに

この方法で、 $N_n^{n+5}$  等を求めるのは、優秀な数式処理ソフトがあれば話は別だが、計算が大変で、良い方法とはいええない。村井先生の方法が断然すぐれている。しかし、 $\sum ijklm$  等は参考になるかもしれないと紹介する次第である。

### 《参考文献》

[1] 「組み分けの総数の種々の公式と

$$\sum_{k=0}^n (-1)^{n+k} {}_n C_k k^n = n!$$

の組合せ論的な意味について」村井靖雄 数研通信 No.61 数研出版

[2] 「 $n!$  を  ${}_n C_r$  で表そう」四宮一成 数研通信 No.61 数研出版

(元徳島県教員)